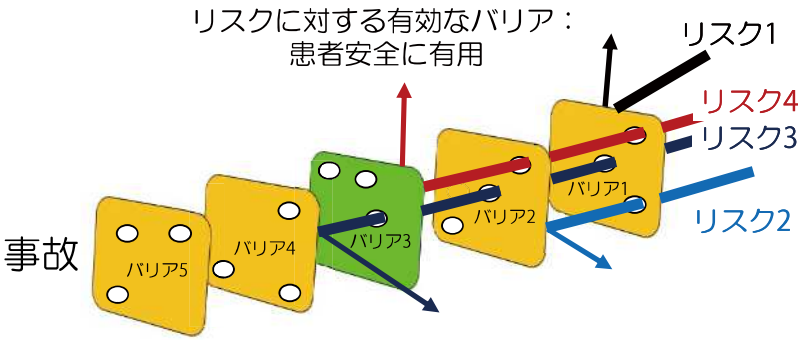
医療安全管理部教授就任のごあいさつ

医療安全管理部　教授　福田（ふくだ）　誠司（せいじ）

2020年4月1日付で島根大学医学部附属病院医療安全管理部の専従医師（副部長）に就任致しました。もともとは小児科、基礎医学研究を専門としていましたが、2013年から5年間、島根大学附属病院医療安全管理室に兼任室員を任命されていたことがあり、そのご縁でお声掛けをいただきました。

大学病院においては特に高い医療安全レベルが求められます。求められる患者安全レベルを維持するためには、根拠に基づいた対応が必要と考えます。医療の安全はリスクとそれに対するバリアのバランスで成り立ちます。リスクがバリアの盲点に入り込むと事故やインシデントに結びつきます。したがって、インシデントの要因解析（リスク解析とバリアの脆弱性の解析）に基づいた根拠のある対策、即ち適切なバリアを設けることと、リスクを少なくすることによって医療安全向上に努めたいと思います（図）。また、がんゲノム医療を始めとするprecision medicine、先進医療、個人情報保護、臨床研究、働き方改革など大学病院を取り囲む状況は目まぐるしく変化していることを感じざるを得ません。これらの変化は当然医療安全活動にも影響を及ぼすでしょうから、常に敏感でありたいと思います。そして、人材育成を通しても島根県内の医療安全活動の質の向上に貢献したいと思います。微力ではありますが、誠心誠意努力する所存です。皆様のご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



Vol.79 2020 05 島大病院ニュース
2020年5月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

Shimane University Hospital
島大病院ニュース
NEWS
2020年 5月
Vol.79

CONTENTS

・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について
・COVID-19対応時の副病院長（安全管理担当）就任について
・医療安全管理部教授就任のごあいさつ

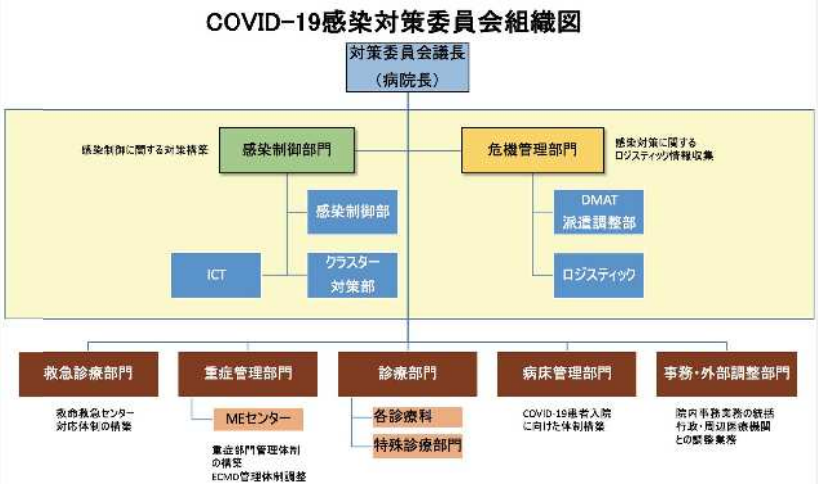
島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について

病院長　井川（いがわ）　幹夫（みきお）

4月9日に島根県初のPCR陽性者が発生し、4月28日には23例となり、各医療機関の皆様も対応に追われている状況と存じます。当院ではCOVID-19対策委員会を立ち上げ、感染制御部門、危機管理部門を中核として救急診療部門、重症管理部門、診療部門、病床管理部門、事務・外部調整部門が有機的に連携した体制を構築し（図）、常に最新の情報に基づいた対策を講じてきました。

ご存じのように、感染患者数の増加を見据えて島根県に広域入院調整本部が設置され、患者発生以降、患者情報に基づいた入院及び搬送の調整が行われています。ECMOなどによる医療が提供可能な当院と県立中央病院が重症～重篤患者を収容する「重症管理指定医療機関」に指定されていますが、入院管理を必要とする中等症の患者数が増加し、感染症指定医療機関・入院協力病院の病床キャパシティーを超えた場合には当院の感染症病床、一般病棟の一部を転換した病床に受け入れる予定で、治療薬の臨床試験への参加等、COVID-19対策委員会でシミュレーションを実施しています。また、入院患者・手術患者を対象としたPCR検査を実施するため、機器の導入を計画しています。

新型コロナウイルス感染の県内発生状況に応じて各診療科・部門の診療を見直す必要があり、院内感染防止に最大限の注意を払いながら、高度急性期医療、がん医療、救急医療、臨床研究、再生医療の推進と充実を図り、特に地域医療における最後の砦機能を果たす所存ですので、ご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



COVID-19対応時の副病院長（安全管理担当）就任について

島根大学医学部皮膚科　教授　森田（もりた）　栄伸（えいしん）

本年４月１日より、副病院長（安全管理担当）を拝命しました。併せて医療安全管理部長と感染制御部長を併任します。今年３月でご退任されました廣瀬副病院長の在任期間の残り１年間を補う人事ではありますが、折しも、新型コロナウイルス COVID-19 が猛威を振るい先の見通しができない中の就任となり、就任直後から責任の重さを痛感しております。幸い、医療安全管理部には福田教授が専従副部長として御就任され、感染制御部は地域医療支援学教授の佐野先生が副部長を併任されておりますので心強い限りです。

この原稿執筆開始後には島根県、鳥取県の山陰両県において感染患者が発生し、島根県ではクラスターとなっています。本院では、井川病院長、佐野先生（感染制御部副部長）を中心として COVID-19 対策委員会が設置され、COVID-19 対策に関する様々なことが協議されて参りました。私の就任初日には教授懇談会が召集され、院内の感染対策、職員への情報提供、学生の臨床実習のやり方などが議論、２日目は感染制御部会議で院内の感染症対応の現状の報告や審議、３日目は早朝から第 11 回 COVID-19 対策委員会が開催されるなど、就任直後から COVID-19 に関する業務で多忙な日々となっております。マスク、防護服、消毒液などの感染防御グッズを継続的に確保し、とにかく院内感染を防ぎ、他病院と連携して病院機能を維持していくことは本院受診患者さんのみならず、島根県民の皆様にとりまして極めて重要な事と認識しております。甚だ微力ではありますが、本院の診療機能の維持に多少なりとも貢献できますよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（写真：４月 10 日早朝から開催された COVID-19 対策委員会）

ご報告

2020年度の救命救急センター充実度段階評価「S評価」を受けました

救命救急センター　センター長　渡部（わたなべ）　広明（ひろあき）

平素は救急患者さんのご紹介等で大変お世話になっております。全国の救命救急センターは昨年度より充実段階評価をもとに4つにランク分けされることとなりましたが、2020年度も同様に充実段階評価「S評価」に認定されました。充実段階評価は、重篤患者の診療機能、地域への救急医療支援機能、救急医療の教育、災害医療対策の4つの領域に関する42の評価項目の充実度により点数化され評価されます。評価基準は年々難しくなっており、100点満点中、昨年は90点以上がS評価でしたが、本年度は92点以上が認定要件となるも「S評価」を取得することができました。

全国292救命救急センターのうち、「S評価」を受けた施設は76施設で、その多くは東京、大阪を中心とした都市部に集中しており、当院は「S評価」を受けた数少ない地方医療機関で、山陰では唯一「S評価」を受けました。今後も都市部の救命救急センター機能に負けない救急医療が展開できるよう救急医療に取り組んで参ります。

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月

ご報告

先進医療再開後の実施状況について

先進医療管理センター　センター長　礒部（いそべ）　威（たけし）
助教　中尾（なかお）　美香（みか）

「先進医療」は、公的医療保険の対象にはなっていないものの、将来的な保険導入のための評価を行うものとして厚生労働大臣が定める「高度の医療技術を用いた療養」に該当する先進的な診断法や治療法です。当院では、先進医療管理センターを設置し、再開に向けて準備を進めてきましたが、2019年12月末に再開準備が整いました。再開にあたり、先進医療実施責任医師と実施医師・関連医療スタッフによる開始前確認会議を行い、実施予定患者を先進医療管理センターに事前申請することで、全例において適格性・倫理的妥当性・安全性を確認しております。2020年2～3月に、「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」を6件（当該先進医療技術については、4月より選定療養に移行し、先進医療としては終了いたしました）、「ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断」を1件、計7件の先進医療を実施いたしました。先進医療管理センターでは、先進医療実施後も定期的にモニタリングを行ない、適正な実施を目指しております。

2020年4月以降は、5技術（表）が実施可能となっております。引き続き適切な先進医療が実施されるように鋭意取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

表：当院で実施可能な先進医療技術一覧

A-11　培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断
A-12　ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）
A-13　細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）
A-15　多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断
A-20　血中TARC濃度の迅速測定
B-36　S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法【登録準備中】

※「A-11」等の先進医療技術番号は、2020年4月1日現在のものです

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

開設から2年を迎えた ロボット支援手術推進センターの現状について

ロボット支援手術推進センター　センター長　安本（やすもと）　博晃（ひろあき）

2012 年 11 月島根大学医学部附属病院に手術支援ロボット da Vinci S Surgical system が導入され、泌尿器科の前立腺全摘除術から始まったロボット支援手術は、2018 年の適用拡大に伴い、婦人科、上部消化器外科、呼吸器外科、下部消化器外科で導入が進み、2019 年度末までに 565 件が実施されました（図 1）。

その内訳は泌尿器科 477 件（前立腺がん 387 件、腎がん 65 件、膀胱がん 25 件）、婦人科 53 件、上部消化器外科 23 件 (胃がん 15 件、食道がん 8 件)、下部消化器外科 10 件（直腸がん）、呼吸器外科 2 件です。

また、本年度の診療報酬改定では新たに 7 術式が保険適用となりました。現在、肝胆膵外科領域では膵がんに対する膵体尾部腫瘍切除術、泌尿器科領域では腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術、骨盤性器脱に対する仙骨膣固定術の導入を準備中で、さらなる発展が期待されます（図 2）。麻酔科医、手術部看護師、臨床工学技士、薬剤師、病棟看護師、病理部などチーム医療を担う皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、今後も患者さんを紹介してよかったと思っていただけるよう地域医療に貢献する所存です。

図1 ロボット支援手術累積件数

図2 ロボット支援手術年次推移

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月

ご報告

骨粗鬆症リエゾンチーム活動の成果報告

リハビリテーション部　副部長　酒井（さかい）　康生（やすお）

2017 年 12 月号の病院ニュースで、再骨折予防を目的とした骨粗鬆症リエゾンチームが発足し、自作の「再骨折予防手帳」を用いた多職種による活動をスタートさせたことを報告しました。その後、出雲圏域の 4 つの連携病院と交流会を開催し、リエゾン活動への話し合いを深めることで 4 施設すべてに骨粗鬆症リエゾン委員会などの組織を立ち上げていただくことができました。

リエゾン活動開始後の当院の退院時骨粗鬆症薬処方率は、リエゾン開始前の 41%から 69%に改善、連携病院退院時には 80%まで向上しました（図 1）。また検査や指導の実施率は、骨密度検査（DXA）100%、骨代謝マーカー 91%、栄養指導 73%、運動指導 91%、口腔内精査 73%と、再骨折予防に重要な取り組みを高率に実施できるようになりました。寝たきりに直結する大腿骨近位部骨折は Hip（おしり）fracture であることから「おしりを守るコツ」というフレーズを考案。「お」はお薬、「し」は食事、「り」は運動であるリハビリ、「コツ」は骨密度検査と骨粗鬆症治療のポイントをわかりやすく示したリーフレットも作成しています（図 2）。当院リエゾンチームは立ち上げ当初に比べメンバーも増加し、うち 6 人が日本骨粗鬆症学会の認定する「骨粗鬆症マネージャー」資格を取得しています（図 3）。引き続き質の高いリエゾン活動発展のため貢献していきたいと考えています。

図 1

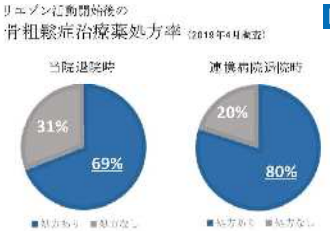


図 2

（リーフレット）

図 3

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

下肢静脈瘤治療の現況につきまして

皮膚科　講師　新原（にいはら）　寛之（ひろゆき）

当科では、2008 年から専門外来として下肢静脈瘤外来を設置して下肢静脈瘤診療に従事してきました。下肢静脈瘤は、下肢倦怠感、皮膚炎などの様々な症状を合併します。合併症としての皮膚・軟部組織炎症が強い場合、内視鏡を用いた内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術（SEPS）が有効です。当院では施設認定取得の上、心臓血管外科とのチーム医療で SEPS を行っております。また、以前は血管抜去術が全国的に施行されてましたが、医療機器の進歩とともに下肢静脈瘤にも血管内治療が行われるようになり、2010 年にラジオ波と血管内レーザー治療が保険承認されました。当科では、2016 年から 1 泊 2 日入院の局麻下血管内レーザー治療を主な下肢静脈瘤手術術式として行っています（図 1）。また、軽症の下肢静脈瘤では整容上の改善のみの治療が必要な場合もあります。軽症例に対しては、外来での硬化療法や色素レーザーを用いたクモの巣状静脈瘤の治療を行っており、下肢静脈瘤の軽症～重症まで幅広く対応できる治療体制を整えて患者満足度の高い治療内容を提供しております（図 2）。そのこともあって、近隣の医療機関から多数の患者さんをご紹介いただき、2016 年度には全国の大学病院の中で当院が下肢静脈瘤手術件数 1 位となり（125 例 / 年）、その後も年 100 例以上の手術を行っています。2020 年には血管内焼灼術認定医が一人増えたこともあり、より患者さんのニーズにお応えできるよう今後とも尽力して参ります。

図1（左：レーザー及びSEPS術前、右：術後）

図2（左：色素レーザー及び硬化療法前、右：治療後）

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月

ご報告

RRSの活動状況報告（第二報）

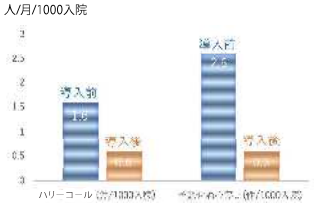
集中治療部　准教授　二階（にかい）　哲朗（てつろう）

2019 年 4 月、島根大学病院では Rapid Response System（RRS）のシステムを導入し、1 年が経過しました。RRS は入院患者の急変を予知し、早期に介入し、予期せぬ心停止につながらないなど、患者予後の改善と、院内の医療者が安心して働くことを目的に設立されたシステムです。高度外傷センター医師、救命救急センター看護師、救急救命士からなる Rapid Response Team（RRT）と集中治療部の医師・看護師・臨床工学技士からなる Critical Care Outreach Team（CCOT）がこの目的に向かって活動を行っています。RRT は 24 時間体制で、病棟や外来などの医療スタッフより、要請があった患者のもとに駆け付け、初期診療にあたります。CCOT は病棟を定期的に訪問し、病棟スタッフが全身状態に懸念を感じた患者の急変兆候の有無を判断し、必要に応じ治療介入を行います。

1 年の活動を行い、ハリーコール数や院内において予期せぬ心停止の報告が飛躍的に減少しました（図 1）。一方、昨年度も心停止にてハリーコールがコールされたほとんどの患者が死亡し、院内急変により重症化して集中治療部やハイケアユニットで治療を受けた患者の予後の向上を認めていないなど、今年度も RRS の活動を継続し、発展させることが必要です。

院内すべての医療者の方へお願いです。急変の早期の発見と治療が何よりも重要となります。RRT コール基準（図 2）へのご理解と、もし患者さんへ接した際、何か懸念されることがありましたら、躊躇なく RRT、CCOT へご連絡をお願いします。今後とも、RRS の活動について病院で働くすべての医療者のご協力のほどお願い致します。

図 1
当院の「ハリーコール数」と「予期せぬ心停止数」
RRS導入前1年間と導入後7か月間で比較



いずれも導入後で有意に減少

図 2　RRTコール基準

あなたの気づきが患者の救命に繋がります！

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

造血幹細胞移植推進地域拠点病院に指定されました

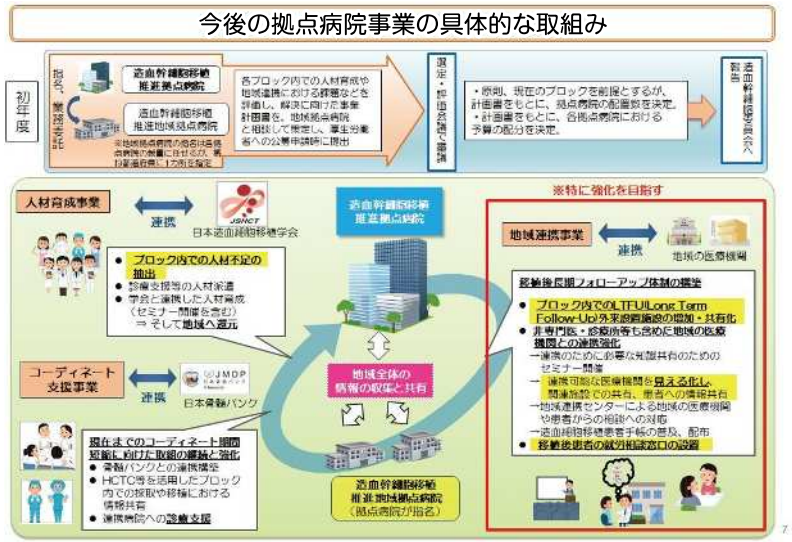
腫瘍・血液内科　講師　高橋（たかはし）　勉（つとむ）

造血幹細胞移植療法は白血病などの造血機能障害に対する有効な治療法であり、日本全国で年間約5600件実施されています。どの地域においても最適な造血幹細胞移植が受けられること、さらに造血幹細胞移植を受けた患者がどの地域に居住していてもQOLが維持された生活を送り長期のフォローアップが受けられる医療提供体制を構築することを目的として、2013年度より「造血幹細胞移植医療体制整備事業」が厚生労働省により開始されています。2020年度より新たにブロック拠点病院の下に地域拠点病院が指定されることになり、この度当院が指定されることになりました。

地域拠点病院の使命としましては、さらなる質の高い移植医療の提供、移植に関わる人材の育成、地域の医療機関との連携強化などが挙げられます。

当院では腫瘍・血液内科、小児科で年間約20件の移植を実施しています。移植は高度免疫不全による日和見感染症や移植片対宿主病（GVHD）・移植関連合併症による重篤な状態が生じることがあり、院内の各診療科、放射線部、検査部、リハビリテーション部、栄養治療室など多くの部署のご支援をいただいています。地域の先生方にも移植後患者の診療や予防接種などのご支援をいただいており、この場を借りて御礼申し上げます。

国のトップレベルの造血細胞移植医療が継続的に島根県の患者さんに届けられるようにより一層精進いたします。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



厚生労働省HPより
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/ishoku/zouketukansaibo.html

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月
ご報告

再生医療を応用した先端顎骨再建治療の実際

歯科口腔外科　診療科長・教授　管野（かんの）　貴浩（たかひろ）

当院歯科口腔外科では、口腔顎顔面領域に発症する様々な疾患に対応をしておりますが、とくに顎口腔の腫瘍切除（悪性・良性）、顎顔面外傷、顎変形症や先天欠損などの患者さん方は多く、これらの疾患により、摂食・嚥下・咀嚼・構音といった大切な機能と顎顔面形態の変形にお困りになられる方がおられます。近年、これら顎口腔の機能と形態再建治療には、各種再生医療の応用が有用な治療方法として注目されています。われわれは、当該分野のフロントランナーとして各種先端治療である顎骨再生療法を適応することにより、良好な治療結果を得ております。

さらにこれら先端顎骨再生治療に、昨年当科に導入された最新手術支援ソフト（Materialise ProPlan CMF）を併用することにより、精密正確な診断と３次元での詳細な顎骨再生手術治療計画と実際の手術への各種器具等の作製支援が可能となり、顎口腔の機能と形態回復を希望される患者さんへ、低侵襲な最先端再生療法の提供が可能となりました。

先端顎骨再生治療：顎顔面外傷後の顎口腔の機能障害と欠損による変形に対する“顎骨延長による顎口腔の再生療法”と3次元デジタルテクノロジーを併用した低侵襲で精密・正確な治療計画と治療後の機能と形態の回復

今後もエビデンスを重視した安心安全で最良の顎口腔の再生治療を提供することにより、島根県圏域の歯科口腔外科医療の発展に貢献して参る所存です。顎口腔の機能と形態変形等でお困りの患者さんがおられましたら、われわれがお役に立てましたら幸甚です。

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

(ダ・ヴィンチ：手術支援ロボット)

da Vinci 直腸がん手術
～本年4月より保険適用になりました～

消化器・総合外科　助教　山本（やまもと）　徹（てつ）

島根大学病院消化器・総合外科大腸疾患外科グループでは、2019年1月よりda Vinci（ダ・ヴィンチ：手術支援ロボット）を用いた直腸がん手術を導入2020年4月1日より保険適用となりました。

ダ・ヴィンチ手術は、手術アームと呼ばれる3本の手術器具とカメラを術者がコンソール（操作機器）から操作して行うことが、最大の特徴です。従来の腹腔鏡手術では、人間が鉗子やカメラを操作して行うために、細かなブレが非常に目立ちます。ダ・ヴィンチ手術では機械がその作業を変わって行うので、ブレのない画像描出や操作が可能となります。また、手術アームは多関節アームといって、従来の腹腔鏡鉗子よりも多くの関節を擁しているので、より人間の手に近い動きができます。

直腸は骨盤と呼ばれる握りこぶしがやっと入る程度の空間にはまりこんでいる臓器で、さらに膀胱機能や性機能を司る神経がすぐ近傍を通っているので、それらを損傷しないように繊細な操作が必要となる特徴があります。そのため、直腸がん手術はロボット手術の利点が最もよく生かされる手術とみなされています。

ダ・ヴィンチ手術が保険適用となるまで一年以上もかかった背景には施設基準や術者基準をクリアする必要がありました。かなり厳しい基準ですので、現在のところ直腸がん手術を島根県でできるのは当院のみとなります。現在までに11名の患者さんに行うことができましたが、皆さん大きな術後合併症もなく良好な経過をたどっておられます。そのため、当グループ一同、ロボット支援手術はより安全で精度の高い手術が施行できていると確信しています。今後も積極的に施行していきますのでダ・ヴィンチ直腸癌手術の適応のある患者さんがおられましたら、ぜひ島根大学病院消化器・総合外科外来にお問い合わせください。

問合せ先 消化器・総合外科外来　TEL：0853-20-2384

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月
ご報告

新人看護職が入職しました

看護部　看護教育支援室看護師長　三成（みなり）　理絵（りえ）

満開の桜の中、今年度は67名の新人看護職員を迎え、新年度をスタートしました。

4月1日からの入職時研修では、コロナ感染症対策をふまえて、各々間隔をあけて座り講義を中心に、病院の概要、看護部の概要、チーム医療における他部門紹介、自己の健康管理、医療安全や感染対策などの内容を実施しました。そして、接遇について、まずは身だしなみを整えること、そしてプロとしての意識を持って対応を行うことなど、「患者さんの声」アンケートから頂いた内容をもとに5つの基本マナー「あいさつ・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度」について考える機会としました。

部署配属後には、数日間に分け小人数制で採血・点滴管理の技術演習を実施しました。技術演習時には、緊張した面持ちでしたが、確実な確認の方法や安全な採血や輸液管理の方法を学ぶことができ、新人看護職からは「一つずつ確認して安全に実施していきたい」「患者確認をする上で大切なことが確認できた」などの声が聞かれました。

新人看護職は社会人、組織人としての自覚が芽生え、それぞれの配属部署において笑顔で第一歩を踏み出しています。『地域から信頼される質の高い看護の提供』という看護部の理念に基づき、日々看護実践能力を身につけ頑張っていきますので、皆様温かい目で応援をお願い致します。

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

島大病院の空に「こいのぼり」が揚がりました

近年、住宅事情や時代の変化に伴い、街中でこいのぼりを見かけることも少なくなる中、「病院にこいのぼりを揚げよう。」という井川病院長の声かけで始まった『島大病院こいのぼり掲揚プロジェクト』。今年も病院正門前に掲揚しました。

4月10日（金）当日の朝は曇りでしたが、12時45分の掲揚セレモニーの時間になる頃にはすっかり晴れ、心地よい風が吹いていました。また、集まってくれたうさぎ保育所の子どもたち25名もこいのぼりが揚がるのを待ちきれない様子でした。

井川病院長からのお話の後、子どもたちが「こいのぼり」と「春が来た」の2曲を元気よく歌ってくれ、いよいよこいのぼりを揚げる時が来ました。

子どもたちは病院長、看護部長とともに交代で掲揚台に上がり、元気よく紐を引いてくれて、こいのぼりが空高く泳ぎ始めると、拍手と歓声が沸き起こっていました。

こいのぼりは、これからゴールデンウィーク明けまで病院の空を泳ぐ予定です。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、暗いニュースが多い今日この頃ですが、子どもたちの健やかな成長を願いつつ、空高く元気よく泳ぐこいのぼりを見て、少しでも患者さんの心の癒やしになることを願っています。

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月

ご報告

旧大社駅

日御碕灯台

TSK本社ビル

医学部附属病院玄関ホール

ますだ眼科クリニック（出雲市）

山本眼科（出雲市）

みやけ眼科（松江市）

斐川生協病院（出雲市）

世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」旧大社駅、日御碕灯台などをライトアップしました

眼科学講座　黒目（くろめ）　奈穂子（なおこ）

2020年3月8日(日)～14日(土)の世界緑内障週間に旧大社駅、日御碕灯台、山陰中央テレビ（TSK）本社鉄塔、および島根大学病院玄関ホール、山陰両県の多くのクリニックを緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、日本の視覚障害の原因疾患の第1位である緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を一般の方に広く知っていただくための啓発活動です。

旧大社駅、日御碕灯台、TSK本社鉄塔のライトアップは昼間に見る光景とは違い、とても幻想的で素敵でした。そして今年は、山陰両県の多くの開業医の先生方の御協力をいただき、当講座から投光器を貸し出し、各医院を素敵にライトアップしていただきました。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って今後も続けていきたいと思っています。

ご報告 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2020年5月

お知らせ

「もの忘れ外来」の初診枠が増えました

認知症疾患医療センター

当院のもの忘れ外来の待ち時間は「紹介患者予約申込書」を送付いただいてから２～３ヶ月となっている状況です。現在、もの忘れ外来は脳神経内科と精神科神経科で行なっておりますが、この度精神科神経科医師の初診枠を増やすことになりました。それにより申込みを頂いてから初診までの時間を短くし、出来るだけ早い受診につなげたいと考えております。

つきましては、もの忘れ外来を受診希望で「紹介患者予約申込書」を送って頂く際には、受診診療科枠内の□もの忘れ外来にチェックをお願いします。特殊外来枠の記載は不要です。予約申し込みがあった際には、脳神経内科と精神科神経科の初診枠の中でより早い日時のほうで予約を取らせていただきたいと思います。

なお、患者さん、そのご家族には、もの忘れ外来は脳神経内科もしくは精神科神経科の医師が担当し、どちらの医師も同じように鑑別診断、治療導入を行なっていることを十分にご説明いただき、精神科神経科のもの忘れ外来受診にもご理解いただけるようにお取り計らいのほど、お願いいたします。

もの忘れ外来初診枠

曜　日	診療科	枠　数	診察場所
水曜日（第１･第２･第４週）	精神科神経科	2	１階・外科外来
木曜日	脳神経内科	2	１階・外科外来
金曜日（第２・第４週）	精神科神経科	1	３階・精神科神経科外来

お知らせ 島大病院ニュース
2020年5月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/